

市政
特集

一人でも多くの人を笑顔に 幸せ実感都市 まつやま

～徹底した市民目線による行政 第三幕～

市民の皆さんが、自分たちのまちに愛着や誇りを持ち、いきいきと「笑顔」で幸せを実感できるまちにしていきたいという思いから、「一人でも多くの人を笑顔に 幸せ実感都市 まつやま ～徹底した市民目線による行政 第二幕～」というキャッチフレーズを掲げ、平成26年11月のスタートから全力で取り組んできた野志市政。8つの「幸せ実感」をキーワードにした政策ごとに市政への取り組みの成果をお知らせします。

健康 (健康) 子育て・教育 で幸せ実感

3年余りで、施設を56、定員を1,891人増やし、保育定員を8,086人確保。児童クラブは41クラブ、1,719人増やし、5,255人の受け入れが可能になりました。入院費の子ども医療費助成の対象年齢を「小学3年生まで」から「中学3年生まで」、ひとり親家庭医療費助成を父子家庭にも対象を拡大するなど、児童の健全育成や仕事と子育ての両立支援をさらに進めました。そのほか、児童館の増設や、平成29年10月に総合コミュニティセンターこども館の魅力アップのため「子育てひろばToi Toi Toi」をオープンしました。小・中学校にエアコン整備を進め、平成30年9月までに全中学校と小学校38校で使用を開始し、子どもたちの成育・学習環境を充実しました。「子どもから広がるいじめ0ミーティング」では、平成30年2月から毎月10日を「まつやま いじめ0の日」に設定し、子どもたちが主体になり「いじめ」をなくす取り組みをしています。



放課後児童クラブで学習する児童



子どもやひとり親家庭の医療費助成を拡大



平成29年10月にオープンした「子育てひろばToiToiToi」で子育ての負担や不安を軽減



小・中学生の代表児童生徒が話し合う「子どもから広がるいじめ0ミーティング」



健康 (健康) 福祉・医療 で幸せ実感

高齢者や障がいのある人が、住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らせるよう、地域や社会との交流を促し、見守り支え合う体制を強化しました。また、平成27年10月から中四国初の「常駐型救急ワークステーション」を運用開始するなど、救急医療体制を強化しました。



平成27年10月中四国初！「常駐型救急ワークステーション」オープン

産業 (振興) 産業・雇用 で幸せ実感

平成29年の「子規・漱石・極堂生誕150年」をはじめ、えひめ国体を見据えた観光戦略や、外国人観光客の誘客を進め、平成29年の観光客推定数は600万人を突破、外国人観光客数も過去最高になりました。また、「未・来 Jobまつやま」では、創業・経営、就労支援など幅広いサービスをワンストップで提供し、事業所を増加するほか雇用を促進しました。加えて「まつやま農林水産物ブランド」に、新たに「松山ひじき」「グニーユーカリ」を認定したほか、柑橘を中心に大田市場でのトップセールスや販売店でのPRを行い、新しい取扱店が4年で250カ所増え、合計で312カ所になりました。企業誘致活動では、27企業の立地と約419億円の設備投資、約1,300人の雇用が見込まれます。



「未・来 Jobまつやま」として平成28年4月にリニューアルオープン



平成29年の観光客推定数は、5年連続増で600万人を突破



「まつやま農林水産物ブランド」のトップセールス



賑幸 (振興) スポーツ・文化 で幸せ実感

えひめ国体・えひめ大会では、単独の市では国体史上最多の32競技・36種目を実施しました。県などと連携し施設整備など準備を進め松山らしいおもてなしをしました。参加者数延べ約34万人、経済効果は約292億円と発表されています。また、平成27年5月、「ことばを大切にすまちづくり」が、平成26年度文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)を受賞。「俳都松山」をPRし、ことばと文学のまち松山の魅力を国内外に発信したほか、平成29年には、「子規・漱石・極堂生誕150年」で子規記念博物館のリニューアルや記念式典などを行いました。



史上最多32競技36種目を開催し、24年ぶりに天皇・皇后両陛下も訪れたえひめ国体・えひめ大会



子規・漱石・極堂生誕150年記念式典を開催

賑幸 (振興) 交通 で幸せ実感

国・県・市が共同で整備を進めている松山外環状道路は、平成28年12月に全線が開通したインター線に続き、平成29年9月に空港線の側道が開通。松山空港から国道56号、松山IC、国道33号をつなぐ新たなルートが形成され、松山空港から松山ICまでの所要時間(平均値)が整備前の28分から整備後は16分へと短縮されました。



整備が進む松山外環状道路

賑幸 (振興) 地域の宝 で幸せ実感

平成29年12月に道後温泉別館 飛鳥乃湯泉、平成30年4月にアートの大祭「道後オンセナート2018」がグランドオープンするなど、道後地区を活性化し、道後温泉入浴客数は4年連続110万人を超えました。また、アーケードがリニューアルされた大街道に平成27年8月、アエル松山がオープンし、国・県・市が連携した景観整備と合わせ都市景観大賞国土交通大臣賞を受賞。花園町通りでは、アーケードの撤去や電線類の地中化などの整備が平成29年9月に完成し、安全で快適な歩行者空間やまちの賑わいを創出し、歩いて暮らせるまちづくりを進めました。



市営では33年ぶりの新たな温泉施設「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」が平成29年12月グランドオープン



アートの大祭「道後オンセナート2018」開催中。来年2月末まで



アーケード入り口のリニューアルや、アエル松山のオープンにより、周辺の歩行者は約1.5倍に増加



花園町通りが「歩いて暮らせるまち松山」の新たなシンボルロードとして生まれ変わり、完成後の歩行者は約2倍に増加

幸共 (公共) 市民主体・連携 で幸せ実感

地域別のタウンミーティングに加え、平成27年2月から新たに世代別、職業別のタウンミーティングを実施し、110回を迎えました。幅広い世代や職業の皆さんとの対話を通じ、市民と協働のまちづくりを進めています。また、平成28年7月に連携中核都市宣言を行い、近隣5市町と連携中核都市圏形成に係る連携協約を締結するなど広域連携を強化しました。友好交流協定を締結している台湾・台北市とは、観光、文化・スポーツ、青少年、経済など、幅広い分野で交流し、台湾からの観光客数は、25倍(交流を開始した平成21年比)になりました。



平成29年2月の100回目は初の高校生と



平成29年10月に台北市と友好交流協定再調印



松山圏域の3市3町が連携協約を締結し、まちづくり活動を支援する「まちづくり提案制度」を平成28年度から開始



子どもや若者がアイデアを出し、行動するまちづくり活動を支援する「まちづくり提案制度」を平成28年度から開始

お問い合わせは、企画戦略課 ☎948-6341・FAX934-1804へ

健康 (健康) 環境・安全安心 で幸せ実感

一般廃棄物最終処分場の浸出水に含まれる塩類からエコ次亜を生成する日本初・松山方式のエコ次亜生成施設が、平成29年4月本格運用を開始しました。平成28年度のごみ排出量は、人口50万人以上の都市の中で、市民1人1日当たりのごみ排出量が10回目の最少を達成しました。ごみ減量を進めるため、平成29年度から、3010運動の実践など食品ロス削減を呼びかけています。南海トラフ巨大地震などに備えた防災土数全国1位、消防団員数四国1位、女性消防団員数全国1位を維持し、さらに地域防災力を高め、内閣総理大臣賞・消防庁長官賞などを受賞しました。また、小・中学校全校舎の耐震化は、当初の計画を5年前倒して平成28年9月に完了し、平成30年3月には市立幼稚園園舎耐震化率も100%になるなど、市有施設の耐震化を進めました。



耐震化された高浜小学校校舎



3010運動推進ロゴ

平成18～26年度9年連続、平成28年度10回目のごみ排出量最少



1人1日当たりのごみ排出量 日本一最少 返り咲き